

令和3年度の青森県内国有林におけるナラ枯れ被害の状況について

1 ナラ枯れ被害の概況

- ・青森県のナラ枯れ被害は、平成22年度に深浦町大間越で初めて確認されたが一旦終息。平成28年度に再び深浦町で確認されて以降、被害は拡大傾向となっています。
- ・令和3年シーズンは既存被害地の7市町村(五所川原市、つがる市、鱒ヶ沢町、中泊町、弘前市、西目屋村及び深浦町)において被害が継続しています。

【青森県内国有林のナラ枯れ被害】

(単位：本)

シーズン	H29 シーズン	H30 シーズン	R1 シーズン	R2 シーズン	R3 シーズン ^{※1}
被害本数	1,677	1,108	5,469	14,607	11,995

シーズン（7月1日～翌年6月30日）

※1：R3シーズンについては、令和4年5月下旬時点のデータとなっています。

2 ナラ枯れ被害対策

(1) 監視対策

巡視による地上監視及びヘリコプター、ドローンによる上空監視を実施しました。ヘリコプターによる上空監視については、県及び林業研究所と共同実施しました。また、ナラ枯れ調査強化月間（9月）を設定し、対策に当たっています。

(2) 駆除対策

被害状況や環境条件等に応じ、適切な対策を実施しました。被害発生初期エリア（被害木10本/ha未満）及び十二湖周辺については、伐倒くん蒸若しくは立木くん蒸処理を実施し、被害発生中期以降エリア（被害木10本/ha以上）については、被害が面的に広がっていることから、おとり丸太法による誘引捕殺^{※2}を実施しました。また、被害木については、一部薪炭材として販売し、有効活用しています。

※2：伐倒玉切りした健全木を集積し、合成フェロモン剤を設置。カシナガを大量に誘引した後、破碎・焼却等により殺虫。未被害地では、カシナガを呼び寄せるため実施していません。

(3) 予防対策

未利用広葉樹の伐採利用を推進し、被害を受けにくい森づくりを目指しています。

令和3年度ナラ枯れ被害対策実施箇所

津軽国定公園



被害発生初期エリア

被害発生中期以降エリア

- R3ナラ枯れ駆除対策箇所 (複数本の場合もあり)
- R3おとり丸太設置箇所

令和3年度の青森県内国有林における松くい虫被害の状況について

1 被害木調査

(1) 地上からの巡視による調査

津軽森林管理署職員が地上からの巡視による松くい虫被害木調査を行いました。令和3年度は松くい虫被害を1本確認し、伐倒燻蒸処理を行いました。引き続き、調査を実施していきます。

(2) ヤニ打ち調査

令和3年度は広戸地区（令和2年度とは別の箇所）において403本のアカマツについてヤニ打ち調査を実施しました。

調査の結果、ヤニが流れなかった異常木を広戸地区において1本発見しました。国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所において鑑定を行いました。松くい虫被害の原因であるマツノザイセンチュウは検出されませんでした。

【青森県内国有林の松くい虫被害】

(単位：本)

市町村	H29 シーズン	H30 シーズン	R1 シーズン	R2 シーズン	R3 シーズン	計
深浦町	1	0	0	1	0	2

※シーズン（7月1日～翌年6月30日）

2 今後の対応

(1) 被害木等の処理

今回、ヤニ打ち調査で発見した異常木1本（アカマツ）は津軽森林管理署において令和4年6月中旬までに伐倒くん蒸による駆除を実施する予定です。

今後も引き続き、被害木の早期発見と処理に努め、被害の拡大防止を図ります。

(2) 監視等

職員による地上からの巡視に加え、ドローンを活用した調査及びヤニ打ち調査を実施します。また、県及び管内市町村と被害情報及び駆除方針を共有するなど、周辺地域での被害木の早期発見に向け、連携して被害対策に取り組めます。

